

令和6年度全国及び岡山県学力・学習状況調査の結果について

1 全国学力・学習状況調査の実施状況

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 学力調査の実施期間

令和6年4月18日（木）

(3) 参加児童生徒数・実施教科等

校種区分	対象校数	対象学年	受験者数	実施教科・質問紙
小学校	27校	第6学年	810名	国語・算数・質問紙
中学校	8校	第3学年	702名	国語・数学・質問紙

2 岡山県学力・学習状況調査の実施状況

(1) 調査の目的

- ・児童生徒の学力及び学習の状況を把握・分析して指導の成果と課題を検証・改善するとともに、調査結果に基づき個々の児童生徒が自らの学習等の改善に資することを目的とする。

(2) 学力調査の実施期間

令和6年4月18日（木）

(3) 参加児童生徒数・実施教科等

校種区分	対象校数	対象学年	受験者数	実施教科・質問紙
小学校	27校	第3学年	752名	国語・算数
		第4学年	787名	国語・算数
		第5学年	754名	国語・算数・質問紙
中学校	8校	第1学年	758名	国語・数学・英語・質問紙
		第2学年	709名	国語・数学・英語・質問紙

3 全国及び岡山県学力調査の結果

(1) 全国学力調査の結果【小学6年生・中学3年生平均正答率(%)】

(※津山市、岡山県は、小数第一位を四捨五入している。)

小6 (R3~R6年)									中3 (R3~R6年)								
教科	国語				算数				年度	国語				数学			
	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5	R6		R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5	R6
全国	64.7	65.6	67.2	67.7	70.2	63.2	62.5	63.4	全国	64.6	69.0	69.8	58.1	57.2	51.4	51.0	52.5
岡山県	66	67	68	68	69	62	61	62	岡山県	65	69	70	59	57	51	51	53
津山市	64	63	69	67	68	60	62	60	津山市	61	66	66	56	53	45	46	46
標準スコア	49.7	49.1	50.7	49.7	48.9	48.6	49.7	48.5	標準スコア	48.6	48.2	48.2	49.1	48.4	47.5	48.2	47.6

(2) 岡山県学力調査の結果【小学校3・4・5年生、中学校1・2年生平均正答率(%)】

【小学校】

小3		
教科	国語	算数
	R6(小3)	R6(小3)
全国平均	72.8	78.0
岡山県平均	71.8	76.8
津山市平均	73.1	79.1
津山市の標準スコア	50.1	50.6
全国との比較	0.3	1.1

小4(経年)				
教科	国語		算数	
	R5(小3)	R6(小4)	R5(小3)	R6(小4)
全国平均	72.5	73.4	74.6	72.1
岡山県平均	72.9	71.5	76.8	71.5
津山市平均	73.4	72.9	78.2	73.1
津山市の標準スコア	50.4	49.8	51.7	50.5
全国との比較	0.9	▲0.5	3.6	1.0

小5(経年)						
教科	国語			算数		
	R4(小3)	R5(小4)	R6(小5)	R4(小3)	R5(小4)	R6(小5)
全国平均	67.1	70.8	64.9	73.9	71.9	64.0
岡山県平均	68.7	70.4	63.8	75.2	71.5	62.7
津山市平均	69.8	74.0	63.9	77.4	73.9	63.6
津山市の標準スコア	51.3	51.5	49.5	51.7	51.0	49.8
全国との比較	2.7	3.2	▲1.0	3.5	2.0	▲0.4

【中学校】

中1			
教科	国語	数学	英語
	R6(中1)	R6(中1)	R6(中1)
全国平均	61.3	64.4	76.8
岡山県平均	61.0	63.6	76.6
津山市平均	60.6	63.9	76.0
津山市の標準スコア	49.6	49.8	49.5
全国との比較	▲0.7	▲0.5	▲0.8

中2(経年)						
教科	国語		数学		英語	
	R5(中1)	R6(中2)	R5(中1)	R6(中2)	R5(中1)	R6(中2)
全国平均	59.2	65.1	65.8	54.7	82.7	52.7
岡山県平均	61.4	64.9	66.3	55.4	83.0	51.1
津山市平均	59.0	63.7	62.9	52.1	80.8	48.6
津山市の標準スコア	49.9	49.2	48.6	48.9	48.7	48.1
全国との比較	▲0.2	▲1.4	▲2.9	▲2.6	▲1.9	▲4.1

(3) 全国及び岡山県調査結果の概要

【小学校 成果】

《国語》

- 3・4年生の国語では、基礎・活用ともに県の平均正答率を上回り、全国は3年生のみ上回った。3・4・5年生とも知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と昨年度の課題であった「書くこと」の領域で、全国・県の平均正答率を上回った。条件付き作文など日常的に自分の考えを書かせる指導を継続してきた成果と考えられる。
- 6年生の国語では、全国・県を下回ったが、標準スコアの差は0.3ポイントと全国とほぼ同等の正答率となった。「話すこと・聞くこと」の領域では、全国・県の平均正答率を上回っており、授業の中で話し方、聞き方のスキルの指導や対話的な活動を取り入れるなど、取組を進めてきた成果と考えられる。

《算数》

- 3・4・5年生の算数では、基礎・活用ともに県の平均正答率を上回り、3・4年生では全国も上回った。特に、「数と計算」「データの活用」の領域で全国・県の平均正答率を上回った。市独自の学力定着状況確認テストを作成し、低学年から実施し、つまずき解消の取組を進めてきた成果と考えられる。
- 6年生では、全領域ともに全国の平均正答率を下回ったものの、「数と計算」「図形」については、他の領域と比べて比較的全国との差が小さい。日々の授業改善を進める中で、課題である単元を下学年から系統的に指導したり、基本的な計算に重点を置いた指導をしてきた成果と考えられる。

【小学校 課題】

《国語》

- 3・4・5年生の「話すこと・聞くこと」では、全国・県の平均正答率を下回った。話の中心を明確にしたり、意見の共通点や相違点に着目したりして話し合う問題に課題が見られた。低学年から日常的に、話の要点を捉え、お互いの意見の共通点や相違点に注意して話し合う必要がある。
- 6年生では、「書くこと」「読むこと」の領域に課題が見られる。各設問で問われていることを正確に読み取る力に、依然として課題がある。読解力の向上に向けて「よむYOMUワークシート」等を活用しながら今後も改善の取組を引き続き行う。

《算数》

- 4・5年生の「わり算」や「計算のきまり」といった基礎的計算の積み上げにつまずきが見られる。学年が上がるにつれて正答率の低い層が増えているため、つまずき解消の個別の手立てが必要であるとともに、下学年からの系統立てた指導が必要である。
- 6年生では、「思考力・判断力・表現力等」を問われる問題に課題が見られた。計算して答えを出すだけでなく、なぜそう考えたか、「数学的な見方・考え方」を働かせ、問われている条件を入れて理由を説明したり、書いたりする力の育成が必要である。

【中学校 成果】

《国語》

- 1年生の国語は、全国・県の平均正答率を下回ったが、「漢字の読み書き」、「インタビュー内容の聞き取り」、「報告する文書を書くこと」の内容で全国の平均正答率を上回った。小学校において、児童の定着状況に応じた復習や個別のつまずき解消を進めてきた成果と考えられる。
- 2年生の国語は、全国・県の平均正答率を下回ったが、「文法・語句に関する事項」、「説明的な文章の読み取り」の内容で全国の平均正答率を上回った。「よむYOMUワークシート」の取組や、普段の授業において、知識及び技能に関する学習の充実や、必要な情報に着目して内容を読み取る学習活動の成果と考えられる。

- 3年生の国語では、全国・県の平均正答率を下回ったものの、「話すこと・聞くこと」の領域では全国の平均正答率を上回っている。ペアやグループ、端末を活用した話し合い等で、根拠を明らかにしたり、相手の考えと比べたりする学習活動の成果が少しずつ表れていると考えられる。

《数学》

- 1年生の数学では、基礎・活用ともに県の平均正答率を上回り、「小数・分数の計算」、「文字と式」、「平均・場合の数」、「グラフの読み取り」の内容で、全国の平均正答率を上回った。小学校における基礎基本の徹底やAIドリル「navima」の活用による補充学習等による成果と考えられる。
- 2年生の数学では、全国・県を下回ったが、「正負の数」、「文字式」、「1次方程式」の設問で、全国の平均正答率を上回ったものもある。四則演算や1次方程式を解くことなど、基本的な計算の指導の成果と考えられる。
- 3年生の数学では、全領域ともに全国の平均正答率を下回ったものの、「データの活用」については、前年と比べて全国との差は昨年度より2.0ポイント縮小している。データの比較や傾向を読み取ること等に重点を置いた学習活動の成果が少しずつ表れ、改善が図られていると考えられる。

《英語》

- 1年生の英語では、全国・県を下回ったが、「単語の読み」や「英作文」等の内容で、全国の平均正答率を上回っている。小学校から日常生活等に関する事柄について、語句を音声で十分に聞いて慣れ親しませたり、基本的な表現を用いて書いたりする活動の成果と考えられる。
- 2年生の英語では、全国を4.1ポイント下回っているが、与えられた情報に基づいて英作文を書く設問では、全国の平均正答率を上回った。昨年度も同様の成果が見られ、情報をもとに、既習の文法等を用いて、書くことに重点をおいた学習活動の成果であると考えられる。
- 1・2年生ともに、全領域において全国の平均正答率を下回っているが、「書くこと」の領域については、全国との差が小さくなっている（中1：0.3ポイント、中2：0.4ポイント）。近年の本市の課題である「書くこと」の領域について、焦点化した指導の成果が出ている。

【中学校 課題】

《国語》

- 1・2・3年生では、内容によっては全国の平均正答率を上回るものがあるが、依然として「書くこと」「読むこと」の領域に課題も見られる。文章や与えられた情報をもとにして、自身の考えや登場人物の心情等を、文章にまとめたり、伝え合ったりする学習活動が不十分である。また、根拠を明確にして、自分の考えを工夫して表現する学習活動が必要である。

《数学》

- 1・2年生では、「データの活用」の内容が全国の平均正答率を大きく下回っている。また、2年生の「図形」の内容も課題が大きい。3年生では、全ての領域で全国の平均正答率を下回っている。全ての学年で「思考力・判断力・表現力等」に関する設問が共通の課題と言える。「データの活用」では与えられたデータを比較して、その特徴について説明したり、「図形」では道すじと根拠を明確にしたうえで証明を進めたりする学習活動が必要である。また、答えを求めるまでの過程について説明することや答えに至る根拠を述べるなど、「数学的な見方・考え方」をふまえて、簡潔・明瞭・的確に表現する学習活動の充実が求められる。

《英語》

- 1・2年生において、全ての領域で全国の平均正答率を下回っており、特に「聞くこと」「読むこと」の領域に大きな課題が見られる。授業では、それぞれの領域のねらいに沿って、語彙や表現を豊かにする文構造及び文法などを目的や場面に応じて活用し、聞いたり話したりする活動を増やすことが求められる。

4 学習状況調査の結果

(1) 全国児童生徒質問紙より抜粋（小学6年生、中学3年生）

(1) 自分には、よいところがあると思う(肯定的回答)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国	76.9	79.3	83.5	84.1	76.2	78.5	80.0	83.3
岡山県	79.2	80.9	85.8	85.2	79.1	81.1	82.0	85.1
津山市	78.8	78.6	83.2	83.8	79.0	77.4	76.9	87.3
全国比	1.9	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.3	2.8	▲ 1.1	▲ 3.1	4.0
県比	▲ 0.4	▲ 2.3	▲ 2.6	▲ 1.4	▲ 0.1	▲ 3.7	▲ 5.1	2.2

(2) 将来の夢や目標を持っている(肯定的回答)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国	80.3	79.8	81.5	82.4	68.6	67.3	66.3	66.3
岡山県	79.7	80.0	81.9	81.7	68.9	69.2	68.3	66.8
津山市	81.2	80.4	82.0	83.0	74.4	74.1	78.3	72.7
全国比	0.9	0.6	0.5	0.6	5.8	6.8	12.0	6.4
県比	1.5	0.4	0.1	1.3	5.5	4.9	10.0	5.9

(3) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか。(肯定的回答)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国	52.4	51.3	76.8	83.5	43.8	40.7	63.9	76.1
岡山県	51.5	52.0	78.9	84.1	45.4	42.5	65.7	76.8
津山市	44.7	45.6	78.4	82.6	42.7	42.4	56.7	75.2
全国比	▲ 7.7	▲ 5.7	1.6	▲ 0.9	▲ 1.1	1.7	▲ 7.2	▲ 0.9
県比	▲ 6.8	▲ 6.4	▲ 0.5	▲ 1.5	▲ 2.7	▲ 0.1	▲ 9.0	▲ 1.6

(4) 普段[月～金]、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。学習する時間は除く。(1日2時間以上)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国		32.5		33.8		52.0		55.9
岡山県		31.7		33.6		52.3		57.2
津山市		36.1		35.5		54.7		64.3
全国比	0.0	▲ 3.6	0.0	▲ 1.7	0.0	▲ 2.7	0.0	▲ 8.4
県比	0.0	▲ 4.4	0.0	▲ 1.9	0.0	▲ 2.4	0.0	▲ 7.1

※(4)は、数値が高いほど課題が大きい。

(5) 家庭学習の時間①(1日当たり1時間以上する)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国	62.5	59.4	57.1	54.6	75.9	69.5	65.8	64.3
岡山県	70.6	67.1	63.8	59.2	73.5	64.9	60.8	58.5
津山市	66.3	61.6	61.4	51.7	74.3	65.3	58.1	55.3
全国比	3.8	2.2	4.3	▲ 2.9	▲ 1.6	▲ 4.2	▲ 7.7	▲ 9.0
県比	▲ 4.3	▲ 5.5	▲ 2.4	▲ 7.5	0.8	0.4	▲ 2.7	▲ 3.2

(6) 家庭学習の時間②(家庭で全くしない)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国	3.5	4.2	4.6	5.3	3.5	4.9	6.0	6.6
岡山県	2.1	2.7	3.1	4.2	3.6	5.4	6.5	7.3
津山市	2.0	3.9	2.4	5.7	3.3	5.3	8.3	8.7
全国比	1.5	0.3	2.2	▲ 0.4	0.2	▲ 0.4	▲ 2.3	▲ 2.1
県比	0.1	▲ 1.2	0.7	▲ 1.5	0.3	0.1	▲ 1.8	▲ 1.4

※(6)は、数値が高いほど課題が大きい。

(7) 前年までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(ほぼ毎日)

学年	小6			中3		
	年度	R4	R5	R6	R4	R5
全国	26.7	28.2	25.3	21.6	28.1	31.0
岡山県	24.8	26.5	26.7	19.4	26.2	32.7
津山市	26.1	34.4	35.3	11.4	19.6	23.4
全国比	▲ 0.6	6.2	10.0	▲ 10.2	▲ 8.5	▲ 7.6
県比	1.3	7.9	8.6	▲ 8.0	▲ 6.6	▲ 9.3

※小6は、5年生までの使用。中3は、中1・2年生での使用

(8) 国語の授業の内容は、よくわかる。(肯定的回答)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国	84.2	84.0	85.7	86.3	80.1	81.2	80.0	82.7
岡山県	83.8	83.3	85.9	86.1	78.2	81.8	80.5	83.0
津山市	85.2	87.1	89.9	91.6	77.5	83.9	78.5	90.4
全国比	1.0	3.1	4.2	5.3	▲ 2.6	2.7	▲ 1.5	7.7
県比	1.4	3.8	4.0	5.5	▲ 0.7	2.1	▲ 2.0	7.4

(9) 算数・数学の授業の内容は、よくわかる。(肯定的回答)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国	84.6	81.2	81.2	82.1	74.6	76.2	73.3	75.7
岡山県	83.7	80.1	80.4	81.3	75.3	77.5	74.1	75.8
津山市	84.4	82.5	85.9	84.1	74.9	81.6	79.4	75.7
全国比	▲ 0.2	1.3	4.7	2.0	0.3	5.4	6.1	0.0
県比	0.7	2.4	5.5	2.8	▲ 0.4	4.1	5.3	▲ 0.1

(10) 英語の授業の内容は、よくわかる。(肯定的回答)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国				78.3				63.9
岡山県				76.5				62.7
津山市				81.1				57.0
全国比	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	▲ 6.9	
県比	0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	0.0	▲ 5.7	

※中学校の英語の調査は、3年ごとに実施のため、R6年度は、実施なし。

(11) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。(肯定的回答)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国	78.2	77.3	78.8	81.9	81.0	79.2	79.2	80.3
岡山県	76.8	76.1	78.2	80.8	80.8	78.9	78.9	80.0
津山市	72.5	75.4	79.2	80.2	78.8	80.1	78.7	80.4
全国比	▲ 5.7	▲ 1.9	0.4	▲ 1.7	▲ 2.2	0.9	▲ 0.5	0.1
県比	▲ 4.3	▲ 0.7	1.0	▲ 0.6	▲ 2.0	1.2	▲ 0.2	0.4

(12) 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。(肯定的回答)

学年	小6				中3			
	年度	R3	R4	R5	R6	R3	R4	R5
全国	78.8	80.1	81.8	86.3	77.8	78.9	79.7	86.1
岡山県	78.2	80.8	81.9	86.6	78.4	79.8	80.5	86.6
津山市	74.6	75.2	82.9	86.8	72.6	78.7	76.6	87.6
全国比	▲ 4.2	▲ 4.9	1.1	0.5	▲ 5.2	▲ 0.2	▲ 3.1	1.5
県比	▲ 3.6	▲ 5.6	1.0	0.2	▲ 5.8	▲ 1.1	▲ 3.9	1.0

※R6年度より文言が一部変更「広げたりすること」→「新たな考え方に気付いたりすること」

(3) 全国学校質問紙より（各校からの回答より）（※数値は、津山市教育委員会のホームページに公開）

【成果】

- 小中学校ともに、学力調査結果の分析とその反映について「よく行っている」と回答している学校の割合が全国・県の平均を20ポイント以上上回った。昨年度までも同様の傾向があり、学力調査を丁寧に行い、改善点を、各学校の学びのサイクルに位置づけ、計画的に取り組んできた成果であると考えられる。
- 小中学校ともに、児童生徒の様子を担任等だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り等を行っていることについて「よく行っている」と回答している学校の割合が、全国・県を上回った。小学校での教科担任制、学年担任制（R6より全校実施）や中学校での教科横断的な取組の成果であると考えられる。
- 小中学校ともに、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことについて「よく行っている」と回答している学校の割合が、全国・県を上回った（小：+11.9ポイント 中：+43.3ポイント）。

【課題】

- 児童の端末活用について、「ほぼ毎日活用している」と回答した学校は全国・県を上回っているが、考えをまとめる場面や児童同士のやり取りなどの活用場面では、全国・県を下回った。交流場面での活用を増やすなど、端末の効果的な活用について引き続き検討してしていく必要がある。
- 小中学校ともに、近隣の小中学校と教科に関する共通の目標設定等、共通する取組の程度について「よく行っている」と回答した学校の割合が、全国・県を下回った。小学校と中学校、小学校同士の教科指導に関する連携を一層高める必要がある。

(4) 学習状況調査の概要（全国調査小6、中3、県調査小5、中1、中2の回答より）

【成果】

- 「自分には、よいところがある」と肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校5年生、中学校1・3年生で県平均を上回った。各小中学校のつやま郷土学を教育課程に位置づけた取組などで、児童生徒が活躍する場を設定し、児童生徒の頑張りや活動の成果を承認してきた成果と考えられる。
- 「将来の夢や目標をもっている」と肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校6年生、中学校1・2・3年生で県平均を上回っている。児童生徒に学校行事等でそれぞれの目標を意識させた活動やその振り返りを重視した指導の成果が表れていると考えられる。
- 「授業の内容がよくわかる」では、小学校は、国語、算数、英語において県平均を上回った。中学校2年生の国語と中学校3年生の数学以外は、県平均を上回った。各学校において、児童生徒の実態を捉え、習熟度別授業の実施やきめ細やかな指導が行われている成果と考えられる。
- 昨年度課題となっていた「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか」では、初めて小学校5年生から中学校3年生までの、全ての学年で県平均を上回った。学校訪問や学力向上等の担当者会、授業改革推進チームの指導などによる各学校の授業改善の成果と考えられる。学力とのクロス集計を行うと、本設問の肯定的な割合が高い児童生徒の方が国語・算数（数学）の正答率が高くなっており、今後も各校の授業づくりの重要な視点となると考えている。
- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」では、小学校5年生、中学校1・3年生で県平均を上回っている。また、県平均を下回った学年も経年比較すると改善傾向にある。「学びのサイクル」を意識した、授業と家庭学習の連動や課題設定の工夫等、主体的に学習に向かうための手立てを各学校が工夫してきた成果が見られている。
- 小学校6年生、中学校1・2年生において、「PC・タブレットなどのICT機器の使用（ほぼ毎日）」の割合が全国や県を上回っている。ICT活用推進員の授業公開や好事例の紹介、各学校における校内研修で端末の効果的な活用を共有した取組の結果と考えられる。

【課題】

- 「普段〔月～金〕、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。携帯やスマホを使って学習する時間やゲームをする時間は除く。(1日2時間以上)」では、小学校5年生、中学校1・2・3年生の全ての学年で県平均より数値が高く、課題が大きい。特に中学校3年生に関しては、かなり数値が高く大きな課題となっている。学力とのクロス集計を行うと、数値が高いほど正答率が低くなっている。市全体として年々増加傾向であり、PTAや学校運営協議会とも連携し、実効性のある家庭でのルールの確認、徹底が必要である。
- 「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した割合は、小学校6年生、中学校2年生で県平均を下回った。この学年は、昨年度も県平均を下回っていた。学級や学年全体で、児童生徒の頑張りや活動の成果の承認を意識して行う必要がある。
- 「家庭学習時間1時間以上している」割合は、小学校5・6年生、中学校1・3年生で県平均を下回った。また、「家庭学習を全くしない」児童生徒の割合は、小学校5・6年生、中学校1・2・3年生の全ての学年で県平均を上回っている。今後は、家庭学習の習慣の定着とともに、児童生徒が主体的に取り組めるような内容、例えば端末活用や授業との連携の工夫等行う必要がある。

5 今後の主な取組について

【教育委員会の取組について】

- 全国及び岡山県学力・学習状況調査の結果をふまえた課題分析と今後の取組について校長会議や学力向上等の担当者会で説明する。
- 全国及び岡山県学力・学習状況調査の結果をふまえ、臨時校長懇談会を実施し、成果の上がっている学校の事例を共有する。また、中学校ブロック単位で課題を共有し、改善を協議する。
- 課題の大きい中学校数学について指導主事等の学校訪問等で重点的に指導を行う。学期ごとに各学校の取組を確認し、学力低位層への指導について指導助言を行う。
- 中学校英語教員を対象とした専門研修を引き続き行い、英語指導力の向上と系統的な指導を推進する。
- 「よむYOMUワークシート」や端末の活用の好事例を紹介し、読解力を高める指導方法を広める。
- 授業改革推進チームと連携し、家庭学習と授業をつなぎ、児童生徒の家庭学習への意識を高め、主体的に学習に向かえるような取組の促進を行う。
- スマートフォン等の適切な使い方について、家庭や地域を巻き込んで指導できる教材を全校に再度周知しNetモラルの計画的な指導を促す。

【各校の主な取組について】

- 「学びのサイクル」の検証や見直しを行い、全職員で徹底する。
- 「思考力・判断力・表現力等」の育成に重点をおいた授業改善をさらに進める。
- 小学校ではフォローアップドリル及び定着状況ウォームアップ、学力定着状況確認テストを着実に実施し、特に算数科で積み残しがしないような取組を検討し実施する。
- 中学校では、教科の専門性をさらに高めるため、校内研修や教科会を実践的に行う。例えば、授業アイデア例などを利用し、全国学力・学習状況調査問題を授業化した公開授業に組織的に取り組む。
- 家庭学習に主体的に取り組めるよう、端末の活用や授業と連動した家庭学習の内容を工夫する。
- 小学校低学年のうちから、スマートフォン等の適切な関わりについての学習をしていく。またPTAや学校運営協議会へ情報提供し、家庭や地域も連携して定期的な家庭でのルールの見直しや啓発活動を行う。